

継続的な課題として
考えられる内容

適切な質問を考え英文を書く

問題の趣旨

情報を基に、それに関連する質問を考え、
英文を書くことができる。

学習指導要領における領域・内容

エ 書くこと

(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

【平成 26 年度】 通過率 51.0%

- 12 次の英文は、ユキ (Yuki) と留学生のマーク (Mark) が、ユキのクラスの時間割を見ながら、授業や部活動について話している会話文です。英文を読んで、あとの1～3の問いに答えなさい。

【本文省略】

- 2 あなたがマークなら、授業や部活動に対して他にどんな質問をしますか。質問を1つ考えて英語で書きなさい。

【平成 29 年度】 通過率 60.7%

- 11 広島にホームステイをしているアメリカ人のマイク (Mike) は、夏休みに行われる体験プログラムに参加しようと思っています。そこでマイクは、それぞれの体験プログラムについて書かれた表を見ながら、友達のエミ (Emi) と話をしています。会話文を読んで、あとの1～3の問いに答えなさい。 ※本文から設問に関連する部分のみ抜粋。

Emi : ② _____
Mike : Yes, I do. Soccer is a lot of fun.
But I can use only 500 yen for the program.

- 2 文と文のつながりを考えて、下線部②に英語で1文を書きなさい。ただし、語数は3語以上とします。

関連する言語活動の指導事項

ア 聞くこと

(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

エ 書くこと

(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
(ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。



解答類型を基に生徒の誤答を分析しましょう。さらに、生徒の実際の解答を見て、個々の生徒のつまづきを把握し、その個に応じた具体的な手立てを講じていきましょう。

通過率の推移

自校の数値を入れて分析してみましょう。

年度	H26	H27	H28	H29	自校 H29
通過率 (%)	51.0	64.5	32.2	60.7	

誤答(平成 29 年度)と分析

誤答と無解答	H29 (%)	自校 H29 (%)
類型 1 (Do you like soccer? など) において、英文について内容を理解する上で支障のない誤り (例: 綴りの誤り、大文字・小文字の誤り、符号の誤り等) が 2 か所以上ある。	0.6	
Are you like, Is you like など、be 動詞と一般動詞を一緒に使って書いている。	0.3	
疑問文で書いていない。	1.3	
Does you like など Does you ~ で書いている。	0.1	
疑問詞から始まる疑問文を書いている。	1.8	
Do you のみ、Are you のみ	0.4	
上記以外の解答	17.7	
無解答	17.2	

継続的な課題

- 前後の文脈を読み取り、場面に応じた適切な英文を書くことに課題がある。

【分析】

場面に応じて適切な質問を考え英文を書く問題は、平成 26 年度から出題していますが、平均通過率が 60%を下回った年度もあり、継続的な課題が見られます。

平成 29 年度は、それまでの文脈や、後に続く応答を考慮しながら、場面に応じた適切な質問を書く形式の問題でした。この設問の誤答として、be 動詞と一般動詞を併用していたり、疑問文で用いる助動詞を正しく使えていないなど、文法的な誤りがみられました。

また、疑問詞から始まる疑問文を書いていた、そもそも疑問文で書いていなかったりするなど、文脈を正しく読み取れていないと考えられる誤答がみられました。さらに、「上記以外の解答」が 17.7%と高い割合を占めています。この原因も、後に続く「Yes, I do. Soccer is a lot of fun.」に着目することができていない等、文脈を捉えられていないことが課題の一つであると考えられます。「上記以外の誤答」については、個々の解答を分析し、どのようなつまづきによるものかを把握する必要があります。

***平成 28 年度英語力調査**

1. 次の対話文(1), (2)の () に合う適当な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。ただし、英文は主語と動詞を含んだ文で書きなさい。
1. の時間は 2 問あわせて 5 分です。

(1) あなたは友達 Mike たちと駅で会うことになっています。	(2) あなたは教室で友達 Ken に話しかけます。
Mike : Here you are! Finally! We're all waiting for you!	You : Hi, Ken. Sorry, but I want to ask you something. (2)
You : (1)	Ken : Sure.
Mike : That's OK. It is only by 10 minutes. Don't worry.	You : I forgot mine. I just need to write my name on my homework.
You : Thanks.	Ken : OK. Here you are.
	You : Thanks.

*平成 28 年度英語力調査…平成 28 年度英語教育改善のための英語力調査事業（中学校）におけるフィージビリティ調査。

平成 27 年度から文部科学省が実施している英語力調査においても、対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する問題が出題されています。

(1)の誤答についても、同調査の報告書では、「空所の前後の英文の内容を読み取ることができていなかったためか、無解答や、脈絡のない英文を書いている答案が多かった。」と分析されており、文脈を正しく読み取ることに課題があると考えられます。

【今後の指導に向けて】

前後の文脈を読み取り、場面に応じて適切な英文を書く力を付けるために、日々の授業で様々なコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を設定し、生徒にそれらを意識させて活動を行いましょ。これは、書く活動だけでなく、どの領域においても重視すべきポイントです。

授業改善のポイント

□ 英文 1 文の意味を文脈から切り離して理解させるのではなく、その文が使われる目的や場面、状況を意識しながら理解させましょう。例えば、次のような活動が考えられます。

<p>①教科書で取り扱われている会話文を用いて、もう一文会話文に付け足す内容を考える活動</p>	<p>②3 文程度からなる会話文の 1 文を抜き、次に続く文脈に合うように適切な形で表現する活動</p>	<p>③まとまりのある会話文のうち、一部を不自然な文脈にし、生徒がそれを見つけて適切な英文に書き換える活動。</p>
<p>Daisuke: Do you like Japanese food? Pat: Yes. I like <i>sushi</i> the best. It's very popular in Australia. Daisuke: Have you ever been to a <i>sushi</i> restaurant with a conveyor belt? In Japan, we call it <i>kaiten-zushi</i>. Pat: Yes. 問 このあと続く文を考えて書いてみましょう。 (平成 28 年度広島県学力調査報告書)</p>	<p>Daisuke: _____? Pat: Yes. I like <i>sushi</i> the best. It's very popular in Australia. Daisuke: Have you ever been to a <i>sushi</i> restaurant with a conveyor belt? In Japan, we call it <i>kaiten-zushi</i>. Pat: Yes. In some restaurants in Australia, <i>sushi</i> goes around a track on a train. 問 初めにダイスケが言った言葉を書いてみましょう。 (平成 28 年度広島県学力調査報告書)</p>	<p>A: What program do you like? B: I like Cooking Class. I don't like cooking very much. So I often help my mother with cooking dinner. A: Oh, really? What do you like to cook? B: I like to cook <i>okonomiyaki</i>. A: I see.</p>